キャラクター名
笹目　碧（ささめ　みどり）

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ モルフェウス	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	受付嬢
オプショナル		年齢	21	性別	女
覚醒	犠牲	衝動	解放	初期侵食率	34 %
出自	兄弟	経験	脱走	邂逅	同行者(玉野椿)

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	5	1	0			6
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	23
行動値	13
(非装備時)	13
戦闘移動	18
全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	5		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	2		意志			調達	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
《ハンドレッドガンズ》Lv.3	射撃	6r+5	-	LV+4		
レーザーシュート	射撃	8r+5	-	13		
レーザーシュート	射撃	9r+5	-	15		
	射撃	9r+5	-	36		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	
情報収集チーム	
子ども用のキャップ(思い出の一品)	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
ロイスNo.59　想い人(オンリーユー)	P	N		
笹目　亨	P　庇護	N　偏愛		
星野　冬織	P 幸福感	N　不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　6	残り財産P：　1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
C:エンジェルハィロゥ	2	2	M	-	-	-	-	
効果：C値-LV(下限値7)								
小さな塵	5	2	M	武器	-	対決	-	
効果：攻撃力+[LV*2]								
マスヴィジョン	3	4	M	-	-	対決	100%	
効果：攻撃力+[LV*5]、3回/シナリオ								
ハンドレッドガンズ	5	3	m	至近	自身	自動	-	
効果：射撃武器作成								
カスタマイズ	3	2	M	-	-	対決	-	
効果：判定D+LV個								
剣精の手	1	2	A	至近	自身	自動	リミット	
効果：《カスタマイズ》判定時ダイス目の1つを10に変更、[LV+1]回/シナリオ								
ギガンティックモード	1	3	M	武器	範囲(選択)	対決	-	
効果：範囲(選択)へ、終了後武器破壊								
ペネトレイト	1	3	M	武器	-	対決	-	
効果：装甲無視、判定D-1個								
七色の直感	1	-	M	視界	単体	自動	-	
効果：対象の感情を読み取る								
折り畳み	1	-	M	至近	自身	自動	-	
効果：物品を相手の目から隠す								
効果：								
効果：								
効果：								

「あの子は私が絶対に見つけ出してみせる」
地方の小さな町に両親と年の離れた弟の4人で暮らしていた。
その町にはFHセルの実験施設があり、15歳の時オーヴァードの素質が見られた弟とともにセルに捕らえられた。
過酷な実験で苦しむ弟を助けたいという思いで能力が覚醒。弟を連れて施設からの脱出を図ったが、生き別れになってしまった。
弟がいたことは覚えているが、その顔はなぜか思い出すことができない。また、セルでの実験の影響か15歳以前の記憶があやふやになっている。
ヴィーとは脱出の際に助けてもらい、その時から関係が続いている。
記憶障害があるなかで、ヴィーのことはずっと覚えており、その存在と事実が心の支えになっている。(が、本人は余りその事を自覚していない)

脱出後はUGNに保護され、エージェントとして活動しているが、任務外の時は弟の行方を探すことにほぼ時間を使っている。
記憶障害のためか普段はぼーっとしていることが多い。
普段は自分がカウンセリングを受けているクリニックの事務をしている。UGNから与えられたアパートの一室に住んでいる。

武器は《ハンドレッドガンズ》で生み出した弓を使用。
光で矢を作り敵を撃つ。なぜ弓を作っているのかは覚えていない。